

「子どもとつくる楽しい授業の創造」
～楽しく学び 高め合う算数学習をめざして～

I 主題設定の理由

新学習指導要領が完全実施になり2年目になる。算数科の目標の中にも、算数的活動の一層の充実、数学的思考力・表現力、生活や学習の中に活用しようとする態度の育成が重視されている。本部会においても昨年度の研究の視点の中にも、これらの目標に関わることが示されている。研究の成果として、算数的活動の中の作業的・体験的な活動を授業に取り入れることで、子どもたちの意欲を喚起し、体験を元に自分の考えを周りに発信しようとする態度を育てることに有効であることがわかった。また、電子黒板の活用による算数的活動は自己の考えをより視覚的に友だちに伝える有効な方法であり、子どもの理解を助ける有効な手段であることが分かった。それとは別に、昨年度のまとめとして、より研究を深めるため、研究内容を絞り、その題材について理論研究をし、研究授業を行う方法もあるのではないかという反省がなされた。よって今年度も、昨年度の研究テーマを継続し、研究内容を絞ることで研究を深めていきたい。さらに数学的表現力を育成するためには、どのような算数的活動を仕組み、その中でどのような過程や方法を用いて数学的コミュニケーションをさせていくのか、意図的に指導していくことは何かということに着目して研究を進めていきたい。また、わかりやすく楽しい授業づくりに役立つ教材・教具についても、互いの実践を発表しながら、ともに学習をしていきたい。

II 研究の内容

1 授業研究と検証

提案授業 第3学年「かたちであそぼう タングラム」

授業者 堀井ますみ教諭（奥野田小学校）

ア 研究協議より

- ・自分でタングラムの形を作りたい気持ちが強かったので、交流や発言は少なかった。しかし、ところどころで児童の意見の交流は見られた。さらに意見交流を意識するならば、1つのパーツを提示しておき、その後を自分で目的の形を作らせる、いろいろな形づくりと交流のみで1時間使うなど、いろいろな授業展開が考えられる。
- ・普段活躍できない子どもが輝く単元であり、よかった。どの子どもたちも、たくさんの学習内容に集中できていてすばらしかった。学習の深まりに普段の学級経営が大切であるということが、友だちの話を集中して聞くことができるなど学習規律の良さから確認できた。
- ・角の大きさや、辺の長さに着目させることで、児童が形作りを行う際のヒントになったのではないか。この学習にとどまらず、タングラムを休み時間等、自由に作業して形を作っていくうちに、辺や角度など図形の構成要素についても興味を持ち、理解できるようになっていくと考えられる。

- ・中学校の学習にもつながる図形の単元の内容であり，図形領域の学習の過程と既習事項を中学の先生方とも確認を取れたことは合同研究の成果であった。
- 2 研究の視点に関わった指導についての実践事例の発表および情報交換
 - ・部員が研究テーマ，研究の重点に関わる実践事例や参考資料を持ち寄り，交流し合い，互いに学び合った。
- 3 小学校と中学校合同の交流授業研究会・情報交換

III 成果物

- 〈授業案〉 第3学年「かたちであそぼう タングラム」
- 〈実践事例〉 第1学年「たしざん」「ひきざん」(2事例)
- 第3学年「はしたの大きさの表わし方を考えよう」
「全体と部分に目をつけて」「分数のたし算とひき算」
- 第4学年「広さをしらべよう」
理科と算数の学習について

IV 成果と課題

1 成果

- ・授業案検討の中で作業的・体験的な算数活動について全部員で教材研究・討議を行い，研究授業を通して教材・教具の提示の仕方の大切さや，考えを友達と交流しあうことによって互いを高めあうことの大切さを学ぶことができた。
- ・一人一実践の提案を通し，作業的・体験的な算数的活動を取り入れた実践や，教材教具の工夫，言語活動の充実をはかった授業，子ども同士がかかわり合う場の工夫がされた授業などを紹介し，学びあうことで日常の授業の中に生かすことができた。
- ・統一授業研究で，小学校部会では，中学校の学習にもつながる図形領域を，中学校部会では，小学校高学年から続く空間図形の研究授業について研究会を持つことで，それまでの学習の過程と既習事項や指導方法について，それぞれの立場から意見交流を行うことができた。

2 課題

- ・学習後の児童の変容をさらに見とるためにも，授業中の児童の発言やつぶやきを記録し，児童の発言からも，授業の成果と課題を明らかにしていくことが，授業研究として必要ではないか。(授業者本人が録画したビデオなどを見ながら会話を文に書き起こすのは負担も大きい。部会で分担して，授業中の発言について記録して研究を行う。このことは，授業者だけでなく部会員の先生にとってもよい学習の機会になるのではないか)
- ・一人一実践の実践発表の内容が濃く，良いものだったが，交流の時間が足りなかったもので，もう少し時間のゆとりをもち，交流の時間を取りたい。
- ・このところ部員数の減少で，部長や授業者が限られてきた。
- ・夏季研修日が，他研修との重なりのため，参加が難しかったり，夏季休業後数日で統一授業研を実施しなければならなかったりしたので，研究日について検討が必要ではないか。

(部長 小池 美樹)